

第1回
諫早市総合計画審議会
諫早市まちづくり総合戦略推進会議
合同会議結果

日 時：令和7年6月2日（月）
午後1時30分～午後3時50分
場 所：諫早市役所5階 大会議室

会 議 次 第

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付（各委員へ）
- 3 副市長あいさつ
- 4 会長選出（永江正澄氏を選出）
- 5 職務代理者の指名（古賀文朗氏を選出）
- 6 諮 問（市長から永江会長へ）
- 7 議 題
 - （1）諫早市総合計画及び諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の概要について
 - （2）その他
- 8 閉 会

<意見交換>要旨

(会長)

先ほどからお話があります諫早市総合計画及び諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、今後諫早市のまちづくりの基本となる大切な計画でございます。どうか皆様方に市民を代表して、忌憚のない意見を述べていただき、それを集約して、素晴らしいまちづくりに少しでも活かしたいと思っております。どうかご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

まず初めにお断りとお報告をさせていただきます。この総合計画審議会及びまちづくり総合戦略推進会議は原則公開制となっております。また、議事録作成のため録音をさせていただくことを併せてご了承いただきたいと思っております。それでは進めてまいります。

では、第1、諫早市総合計画および総合戦略策定の概要につきまして事務局から説明をお願い申し上げます。

(事務局) ～配布資料により、事務局から説明～

(会長)

ただいま事務局から計画策定の概要につきまして、説明がございました。内容が多かったので、ご質問というのも難しいかもしれませんが、皆さん何かございましたら挙手の上、ご発言をお願いいたします。今から皆さんが意見を言われる内容については、ここで事務局から答えを明確に出せるものではありません。思われていることについて、ご意見を賜りたいと思っております。

【人口減少対策関係】

(委員)

- ・日本の人口減少は避けられず、地方ほどその影響を強く受けると考えています。諫早市内でも中心部に人が集まり、周辺地域の人口はさらに減少していく可能性があります。そうした中で、他自治体との競争が激化し、「人の取り合い」というゼロサムの状況になることを懸念しています。
- ・諫早市が「消滅可能な市」から外れたのは、20歳から39歳の女性人口の動向によるものであり、若い女性をいかに引きつけるかが鍵だと思います。しかし、東京などに比べて職業の選択肢が少ない中で、若者をとどめることは簡単ではありません。
- ・今後10年、20年の間に若者人口が大きく減少するのではないかという危機感を持っています。
- ・今回は計画策定に関する説明でしたが、根本的な課題は人口減少であり、地域をいかに魅力的に維持していくかというところが焦点かと思います。

【子育て・教育関係】

(委員)

- ・子ども福祉医療費の自己負担上限800円は助かっているが、高校生の医療費償還払いの手続きについては面倒で、利用しにくい現状がありました。
- ・最近、公園などが整備され、街がきれいになってきていますが、干拓の里の閉鎖時には多くの市民が署名活動を行うなど、子育て世代からも利用継続を望む声がありました。熱中症対策としても、屋内で安心して遊べる施設が必要との声もあります。
- ・政策の根幹を支えるのは「人」であり、特に若者の動向が将来の諫早を左右する重要な要素だと感じています。今回の総合計画は次の10年間、つまり今の小学生が成人するまでの将来像を左右する期間となります。この期間に、どのような教育を提供し、どんな課題があるのかを見極めること

は、将来の人材育成に直結します。諫早市の強みとして「学校教育」が挙げられていることを嬉しく思っており、「まちづくりは人づくり」という視点をより強く打ち出すべきだと考えます。

- ・教育をまちづくりの柱の一つとして位置づけ、子育て世代に魅力が伝わるようなアピールにつなげてほしいと思います。

【産業（商工業、農林水産業等）関係】

（委員）

- ・企業誘致により市が活気づくことは歓迎すべきですが、企業にとっては採算や市場拡大が主目的であり、全てが地域のためになるとは限りません。光が当たる一方で、影となる部分への配慮が必要と思われれます。
- ・企業誘致については、半導体産業は波があるため、将来的なリスクも考慮すべきです。また、誘致企業が地元で本当に雇用を生み出すかも疑問があります。地元採用は多くが派遣であり、正社員は本社から来ます。地元産業とのサプライチェーンのつながりも弱いのです。単に大手企業を呼ぶだけでなく、地場産業と連携した戦略が必要だと考えています。
- ・小規模事業者の後継者不足や廃業の問題が深刻化しており、大規模企業の誘致が進む中で、小さな事業者が置き去りにされるのではないかと懸念を抱いています。事業継続について、今後はさらに厳しくなると感じています。
- ・農業でも高齢化と後継者不足が大きな課題としてあります。その解決のためには、農業の担い手としてU・Iターン者を呼び込むこと、そして「儲かる」農業を実現すること、つまり再生産できる価格での農業経営が重要です。食料安全保障の観点からも農業振興が必要で、行政の支援に加えて、より一層の取組強化が求められます。本会議で、そのような話ができれば良いと思います。

- ・小長井地区では、牡蠣の養殖が盛んになっており、若い後継者も少しずつ増えてきております。しかしながら、牡蠣のシーズンが終わると、およそ半年間仕事がなくなるため、継続的な雇用には課題があります。
- ・消費が域外に出ている点も重要な課題であると思っています。大型店舗の進出は、一部の賃金支出があるだけで、利益は本社に吸い上げられるため、地元経済に与える影響は限定的です。それが良い悪いではなく、課題にもっと焦点を当てた計画づくりが必要ではないかと思います。

【医療・福祉関係】

(委員)

- ・医療の現場も人口減少社会の中で深刻な人手不足に直面しており、特に救急医療の担い手不足が大きな課題です。救急体制の維持が難しくなっており、有効な打開策が見つからない状態が続いています。
- ・医療機関の経営も厳しく、国の政策による締め付けが強まる中で、病院の8割が赤字で、診療所も厳しい状況にあります。人口流入を促すためには、教育の充実とともに、医療の充実も不可欠であり、医療環境の整備は定住促進にも関わる重要な要素です。
- ・一方で、諫早市の医療体制は県内でも高水準で、産婦人科の医師数や救急医療体制は長崎県内でもトップクラスです。
- ・看護学校も、全日制3年課程の創設以降、2年連続で定員を満たしており、他地域の看護学校が定員割れする中、諫早は非常に健闘している状況にあります。
- ・医療機関の情報についても、休日当番表以外に各病院の得意分野など、分かりやすい情報提供が求められています。

【交通基盤関係】

(委員)

- ・中核団地周辺では朝の通勤時間帯に車の渋滞が発生しており、諫早が車社会であることを実感しています。誘致企業では県外からの雇用も多く、若者の車離れが進んでいることから、市内に引っ越してきた雇用者が利用できるバスなど公共交通の充実が必要です。
- ・車を持たない若者が増えているため、公共交通の本数を増やすことや、自転車専用通路を学校周辺などにもっと整備することが望まれています。

【若者世代の政策関係】

(委員)

- ・大学生の多くは長崎県内就職を希望していますが、特に若い女性の定着を考えると、公務員以外の選択肢が乏しいことが課題としてあります。
- ・将来的に20～30代が住み続けるまちにするには、産業と住宅の住み分けを戦略的に整えることが必要です。そこをしないと、表面的な取り組みで終わってしまうと思います。
- ・若い世代には、「長崎には残りたいが諫早に就職するか分からない」という意見もあり、「諫早にどのような仕事があるか分からないから」という理由が多いようです。これは諫早の魅力や仕事の情報が若者に十分に伝わっていないことが背景にあると思われます。
- ・若い世代への諫早の魅力発信について、若者同士での情報共有などを通して、効果がより高まると思いますので、魅力発信の具体的な方法を検討していきたいと思います。
- ・ファミリー世代が大村市に住宅を建てるという話を聞き、諫早に住み続けていただけるような住宅づくりが重要だと感じました。こうした情報を共有し、地域に人を呼び込む取り組みに活かしてまいりたいと考えています。

- ・「市外へ出ないようにする」というよりは、「一度、市外県外で経験を積んだ後、地元に戻ってきてもらう」ような考え方もあって良いと感じています。外に出ることを否定せず、戻ってきたくなるような環境を整えることが大切だと思います。
- ・本日の話を聞いて、若い人たちの「働く場所」の確保が最も重要だと感じました。諫早市の職業紹介の状況が、若者に十分伝わっていないのではないかと懸念しています。市内には働き口があるようで、実際には、その情報が見えにくい印象ですので、職業紹介の仕組みを、もっとわかりやすく整理していただきたいと思います。
- ・今回気になったのは、20代未満の方の満足度が低いことでした。回答数が少ないため一概には言えませんが、学生時代に諫早の魅力を知る機会が少ないことが、満足度の低さにつながっているのではないかと感じました。
- ・Uターンで諫早に戻ってきた若い方の話を聞くと、東京からの移住支援はあるものの、他地域からの移住者への支援も必要だと感じました。また、総じて、雇用や給与面が重要視されており、出会いなどよりも経済面の充実が鍵であるとの意見を聞いています。

【魅力・情報発信関係】

(委員)

- ・諫早は自然や公園に恵まれた素晴らしいまちですが、その魅力が十分に伝わっていないと感じます。魅力を広く発信する取り組みを、この会議でも検討し進めてほしいと思います。
- ・今後、テレワークの普及で「諫早に住んで県外で働く」人が増える可能性があるため、諫早市の魅力を発信していくことが重要です。
- ・諫早には良い企業が多いけれど、魅力が伝わっていないと感じます。より積極的に発信していけるようなまちになればと良いと思っています。

【まちづくり全般】

(委員)

- ・諫早市内の施設を利用しながらも、大村市に自宅を構える家庭があるのは、土地価格の差が影響していると感じました。
- ・水や自然に恵まれた諫早市の特色を活かし、例えば、愛媛の「蛇口からみかんジュース」のように「山水が出る水道」などがあっても面白いのかなと思いました。
- ・小長井は過疎地域であり、空き家の利活用など、地域を活性化するための支援がより一層必要と考えています。近年は、フルーツバス停がテレビで取り上げられたことで大きな話題となり、県外からも多くの観光客が訪れております。こうした来訪者に小長井で食事をしていただくなど、地域に経済的な効果をもたらす工夫も必要ではないかと感じています。
- ・今年、全国中学校体育大会の競技が諫早市でも行われますが、メイン会場は施設規模の関係で大村市となっています。一方で、諫早市の中高生はスポーツで全国レベルの活躍をしており、施設の充実と指導者の努力がその背景にあると感じています。こうした実績を活かし、スポーツ施設の充実や合宿施設の整備をすることで、交流人口や関係人口の増加につながればと考えています。
- ・「大村市は税金が安い」との声をよく聞きますが、市民税は国の税率に基づいており、大きな差はないと思われます。正確な情報の発信が必要だと感じております。こうした点も、今後のまちづくりで考えていただければと考えております。
- ・以前、「組織の価値を高められるのはその中の人たち自身だ」という言葉を教わり感銘を受けました。「諫早市って何もない」と市民が言うこと自体が市の価値を下げることに繋がります。諫早市のアイデンティティを高めるには、住民一人ひとりの意識が重要だと思います。今後も個人として、

また団体としても、まちの価値を高める努力をしていきたいと考えております。

- ・まちづくりには人が集まることが不可欠であり、時代の変化に対応する柔軟な発想も求められます。これまでの常識にとらわれず、新しい視点での取り組みが重要だと感じています。

【その他】

(委員)

- ・「自然が豊か」「人が温かい」といった特徴は、他の自治体でも言えることであり、諫早独自の魅力としては、文化施設やレジャー施設など、若者が「行きたい」と思う要素が必要だと感じています。これらは予算に関わることであり、計画の中で慎重な判断と投資が求められると思います。今後の変化も踏まえながら、引き続き意見を述べていきたいと思います。
- ・総合計画の10年目の節目として、目的と目標の再明確化が重要であると思います。議論を踏まえた仮説を作り、検証を繰り返すオーソドックスな分析手法が有効です。

また、データ解析の活用により、諫早市の強み・弱みの可視化することができ、次期計画での施策の優先順位づけが可能になると思います。

- ・シビックプライドを数値化することで市民に伝わりやすくなり、政策推進に役立つかと思います。また、CS（顧客満足）分析も活用し、市民意識を定量的に把握することが重要です。

(会長)

それでは、事務局から何か説明等ありますでしょうか。

(事務局)

本日ご意見をいただきました意見を検討してまいります。また、次回の合同会議の日程でございますが、7月9日(水)13時30分から開催したいと思います。場所は、市役所5階大会議室を予定しております。後日改めて文書でお知らせしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(会長)

本日の議事は以上でございます。議事の進行にご協力賜りまして誠にありがとうございました。

(事務局)

以上を持ちまして、第1回総合計画審議会および諫早市まちづくり総合戦略推進会議の合同会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。

～ 閉会 ～